

素 顔 拝 見



摂食嚥下
リハビリテーション学分野
特任助教

竹 石 龍 右

2015年4月より摂食嚥下リハビリテーション学分野の特任助教を拝命しました竹石龍右と申します。私は新潟大学病院で生まれ、高校卒業まで新潟市で育ちました。大学進学を機に上京し、10年余り過ごした後、新潟市に戻りました。医療機器メーカーに在職中、井上誠教授から共同研究の依頼を頂いたことがご縁で社会人大学院生となりました。

共同研究の内容はヒトの咽喉頭に電気刺激を行うことで嚥下を誘発するというものです。実験にはカテーテルの先端に電極を取り付けた専用のプローベを使用するのですが、企業ではその設計に携わっていました。大学院では井上誠教授からご指導を賜り、咽喉頭電気刺激の長期的な効果を検討しました。

現在は新潟大学、東北大学、広島大学の3大学で連携した教育プログラムの推進に携わっています。多くの先生方のご協力を頂きまして、夏季休業中の学生派遣実習（サマースクール）、春季休業中の3大学合同短期派遣プログラム（スプリングスクール）など、これまでの学部教育には見られなかった取組を実現することができました。

私生活ではおもに旅行を趣味にしており、この場をお借りして紹介させて頂きます。

春は福島県に毎年お花見に行っています。新潟市からは日帰りも可能で1本桜から桜並木まで豊富なうえ、早朝から出発すれば1日で6～7か所を回ることもできます。おすすめは郡山市の紅枝垂れ地蔵桜、上石の不動桜、三春町の滝桜、天神夫婦桜を見た後、高柴デコ屋敷を見学、本宮市の

塩ノ崎の大桜、二本松市の合戦場のしだれ桜を見て回るコースです。いずれも写真映えする見事な1本桜で一度はご覧頂きたいと思います。

夏は関東の花火大会に行くことが多いです。都内から電車で行ける会場では足立の花火大会、神奈川新聞花火大会、市川市民納涼花火大会がお気に入りです。これらの大会は1万3千発以上打ち上げられる大きなものですが、開始時刻直前でも場所の確保が容易なだけでなく、かなり近くから鑑賞・撮影することができます。最寄駅から会場までも徒歩圏内であり、行き帰りの混雑も比較的少ないのがポイントです。

初夏から秋は隣県の百名山を中心に年3～4つの登頂を目標にしています。少し距離はあるものの、長野県は体力にあまり自信がない方でもトレッキングができる名所に恵まれています。1泊2日の旅程では初日に松本市の上高地、2日目は乗鞍岳に登った後、白骨温泉に浸かって帰れます。松本市から少し足を延ばせるようなら美ヶ原高原、霧ヶ峰を回った後、諏訪湖畔の温泉に入ってくることもでき、老若男女問わずおすすめです。

冬はカラオケに行くことが多いです。ただ歌うだけではもったいないので採点機能を利用します。評価項目の種類や配点の割合は機種によって異なりますが、まずは原曲を完全にコピーします。得点を稼ぐというよりもいかにミスをしなかが大切です。しかし、選曲によって難易度が大きく変わるので、得点ランキングを参照することも大切です。また、基本的にアルコールの摂取は厳禁です。紅茶またはウーロン茶の氷なしが良いと思います。

以上、簡単ではありますが、プロフィールから私生活まで紹介させて頂きました。お陰様で公私ともに充実した毎日を送らせて頂いています。井上誠教授をはじめ各分野の先生方におかれましては今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



摂食嚥下
リハビリテーション学分野
助教

白石 成

平成27年6月1日より摂食嚥下リハビリテーション学分野の助教を拝命いたしました、白石成（しらいし なる）と申します。素顔拝見に寄稿させていただくのは初めてですので、ご挨拶を兼ねて簡単に自己紹介させていただきます。

生まれは東京で幼年期を栃木県下都賀郡で過ごし、その後は愛知県豊橋市にて高校卒業までを過ごしました。名産はちくわです。当時、愛知県では名古屋市に次ぐ人口を有していましたが、平成の大合併以降は豊田市、一宮市にその規模を越され現在は第4の都市みたいです。

平成12年に東北大学歯学部に入學し当初バスケットサークルに所属していましたが、右手小指の骨折を機に早々に帰宅部となりバイト生活となってしまいました。サークルは練習後に先輩方と食べに出掛ける夕食（飲み会？）が楽しく、今思い返せば先輩方のエネルギーな活力に感服されています。骨折は第二関節の剥離骨折で、人生初の手術となりました（局麻ですが。。。）。手術後は夏休みに突入したこともありリハビリを怠ったためか、現在でも第一関節が十分に曲がらず右手に力が入り辛いことがあります。リハビリは大事ですね。

その後は親友が主将していたボート部に誘われ、活動を始めました。ボートを通じて知り合えた仲間、諸先輩方は現在も貴重な財産となっています。学部最後のシーズンでは同期で1つのクルーを組むことができ、夜練、艇庫に泊まって朝練、からの授業という素敵なスケジュールで練習することができました。時に衝突しながらも濃密は時間を共有できたことは良い経験と思い出となっています。

平成18年に東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野（佐々木啓一教授）に進学、研究は学生時代からお世話になっていた顎口腔機能創

建学分野（鈴木治教授）にて骨再生材料であるOCP（リン酸オクタカルシウム）を利用したバイオマテリアルの研究に携わりました。その後は、バイオマテリアルの創製やインプラントの表面改質の研究に従事し、臨床では東北大学病院顎口腔再建治療部（小山重人准教授）にて、主に頭頸部腫瘍を有する患者に対して、術後の器質的欠損やそれに付随する機能的障害に対する顎補綴治療や摂食嚥下リハビリテーションに携わりました。具体的には、舌切除後の患者に対し準備期の食塊形成や口腔期の食塊送り込みの改善、発音・構音障害の回復することを目的として、口腔機能訓練や舌接触補助床を製作していました。このような診療背景が機会となり、15年間住んだ仙台を飛び出し、摂食嚥下リハビリテーション学分野に入局するご縁となりました。現在は米国シカゴ大学解剖学教室（Prof. Callum F Ross）に研修する機会をいただき、この素顔拝見が発刊される頃には日本に帰国する予定です。

井上誠教授をはじめとした分野スタッフの方々に感謝すると共に、諸先生方にはお世話になることが少なくないと思いますが、少しでも新潟大学に貢献できるように努力してまいります。今後ともよろしく願いいたします。



包括歯科補綴学分野
助教

藤原 茂 弘

2015年4月1日付で助教を拝命しました包括歯科補綴学分野の藤原茂弘と申します。臨床では有床義歯や頭頸部癌術後などの顎顔面補綴を専門に、研究では嚥下時の舌圧発現様相など嚥下機能の生体計測を主にさせていただいております。このような自己紹介をする機会を与えていただきましたので、少しばかり私の身の上話をさせていただきます。

元々は大阪大学の有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野に所属しておりましたが、お世話をしていただいた上司である小野高裕先生が新潟大学の教授となり、その際に光栄にも小野教授よりお声掛

けをいただき、新潟大学に来ることとなりました。

大学時代は苦勞して入った大学だから何か大学じゃないとできないようなクラブに入りたいと思い、スキューバダイビング部に所属していました。高校の卒業旅行で南の島に行き、そこで海の素晴らしさに魅せられていた私は、こんなクラブがあるのかとオリエンテーションで見つけた瞬間にこのクラブにしようと思えました。

ダイビングのライセンスをとり、色々な島や海を巡ってきましたが、ダイビングは最高です。ダイバーにはそれぞれ好みがあり、マンタやサメなど大物が好きな大物派ダイバー、クマノミなど小さい魚が好きな小物派ダイバー、海中の地形が好きな地形派ダイバーなどなどと分けられていますが、私は魚にあまり興味が無い地形派ダイバーです。海の世界は非日常で、岩でできたキレイなアーチや海中に一面に続く砂地など文章ではすべてを表現できませんが本当に素晴らしいの一言です。

海だけでなく島巡りも楽しみの1つで、これまで小笠原、慶良間、宮古、石垣、西表、波照間、与那国、大東島、渡名喜と色々な島を歩きましたが、島ごとに陸上だけでなく海の中までも雰囲気違います。巡るごとに新たな発見があっておもしろいものです。

純粋に海が好きという気持ちで入部したこのクラブですが、海が近くにあるわけでもない大阪で、スキューバダイビング部の普通の活動といえば、酒です。「体育会系に所属しているのだから飲み会だけでも体育会系にしよう」というよくわからないことをOBの先輩が考えたらしく、その伝統が今でも受け継がれ、私が所属していた時は大学で1、2を争う飲み会クラブでした。非常に和気あいあいとした飲み会を在学中は楽しんで、その後遺症かはわかりませんが、大阪大学時代の

医局の飲み会でも少々行き過ぎるところもあったようで、それを新潟でやっつけられないように日々精進しているところです。

スキューバダイビング部という得体の知れないクラブでしたが、海も酒も大好きになり、将来は海の近くに住みたいと漠然と考えておりました。が、新潟に住むとは考えてもいませんでした。沖縄の青い海とオリオンビールを想像していたのですが、荒れ狂う日本海とおいしくて飲み過ぎ注意な殺傷能力の高い日本酒に囲まれた新潟に住むとは全くもって考えておりませんでした。

新潟で右も左もわからなかった私も1年が経ち、新発田も「しばた」と読めるようになり、胎内という地名にもドキッとしなくなり、医療人育成センターにも迷子にならずたどり着けるようになり、私も新潟に少しは慣れてきたのかなと実感しております。新潟の人はみんな優しく、慣れない私に色々親切にしてくださいました。

ようやく環境にも慣れてきたところで、新潟大学のために、また声を掛けていただいた小野先生と包括歯科補綴学教室のために、日々頑張ってお仕事に努めてまいりたいと思います。

関西弁が耳障りかもしれませんが、これからもみまさまどうぞよろしくお願いいたします。最後までお読みいただきありがとうございました。

